



洋上アルプス

No.251 平成28年2月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

松枯れ対策連絡協議会「屋久島支部会」を開催

(12月16日)

当協議会は、林野庁・環境省・県・町・森林総研・樹木医・ヤクタネゴヨウ調査隊で構成され、屋久島及び種子島の松食い虫等による被害木の除去や防除に役立てようと平成17年度から開催されています。



被害状況を報告

会議では被害木(クロマツ)の除去等の実施や、絶滅危惧種ヤクタネゴヨウへの被害拡大が特になかったことの報告がありました。

今後も引き続き監視を続けると共に、一般の皆様へも民有林や国有林で被害を受けたマツを見かけた場合は、情報の提供を呼びかけています。

平成27年度 屋久島世界遺産地域連絡会議幹事会—第4回— (1月26日)

平成27年度世界遺産地域連絡会議幹事会(第4回)及びヤクシカWG合同打合会議が鹿児島森林管理署会議室において開催されました。

ヤクシカWG打合では、第1回WGでの検討経過概要、平成27年度におけるヤクシカの現状、これまでのヤクシカ対策のとりまとめ及び今後の対策の検討等について議論されました。幹事会では、各種調査モニタリングの報告及び28年度調査概要、適正な利用等について議論されました。



会議の様子

今回の幹事会の議論を踏まえ、座長へ事前説明を行い第2回科学委員会が3月4日～5日に鹿児島市で開催されます。

火ノ上山国有林防風保安林の復旧 完了!!



台風による被害状況

屋久島町宮之浦に位置する火ノ上山国有林は、背後に宮浦小学校、中央中学校等が控えており、従前より防風保安林として指定されています。保安林前面の新港側にコンクリート防潮護岸工、消波工を施工管理してきましたが、平成25年10月の台風27号により防潮護岸工が大きく傾倒する被害を受けました。



完成した防潮護岸工・植栽工

屋久島森林管理署では平成26年度に護岸工、今年度は林地復旧を目的とした植栽工(トベラ・シャリンバイ・クスノキ・タブノキ等)を行い、2年にわたる工事が完了しました。

地区の皆様方をはじめ、多くの方々のご協力に感謝申し上げます。

平成28年度「国有林モニター」の募集について

林野庁九州森林管理局では、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、森林・林業や国有林に興味を持たれる一般の方々を対象に、国有林の役割や現状等の情報をお知らせし、また御意見をいただく「国有林モニター」を実施しています。

この度、平成28年度「国有林モニター」を下記の通り募集いたします。皆様からのご応募をお待ちしています。

記

【募集人数】 60名程度（各地域で均衡を図るため、最終的な人数と前後することがあります。）

【依頼期間】 平成28年4月1日～平成29年3月31日（1年間）

【依頼内容】

- 森林・林業、国有林に関するアンケートへの回答（匿名にて公表することがあります）
 - 森林・林業、国有林に関する御意見や御提言などの報告、弊局広報紙への投稿
 - 国有林モニター会議への出席（年1～2回、希望者のうち一定数）
- ※弊局の広報誌など、国有林に関する資料を定期的にお送りします。

【応募資格】

九州・沖縄8県にお住まいの20歳以上（平成28年4月1日現在）の方で、森林・林業および国有林に関心を有する方。

※ただし、国会及び地方議会の議員、地方公共団体の長、常勤の国家公務員、国有林野事業職員OB、森林・林業担当の自治体職員並びに平成27年度に国有林モニターであった方は除かせていただきます。

【応募方法及び問い合わせ先】

下記必要事項をご記入の上、ハガキ、封書、メール又はファックスのいずれかの方法で、以下の宛先まで御応募ください。御不明な点につきましては、御遠慮なくお問い合わせ下さい。

〒860-0081 熊本市西区京町本丁2番7号

九州森林管理局 企画調整課 国有林モニター担当（田中・埜村）

T E L : 096-328-3511 F A X : 096-328-3643

E-mail : ky_kikaku@maff.go.jp

【必要事項】

- 氏名（ふりがな）、性別、生年月日、年齢、職業、住所、郵便番号、電話番号、メールアドレス（ございましたら）
 - 国有林モニターを知ったきっかけ（具体的に記入）
 - 国有林モニターに応募された理由（100字程度）
- ※ご応募いただいた個人情報は、個人情報の保護に関する法律に従い、適正に取り扱います。なお、一度送付いただいた申込書はお返ししませんので、あらかじめご了承ください。

【募集期限】

平成28年2月29日（月）（当日消印有効）

【発表】

- 選考結果は、平成28年3月末日までに依頼状の発送をもってお知らせいたします。
 - 依頼状と共に、確認事項と同意書をお送りしますので、署名の上ご返送下さい。
- ※選考結果に対する個別のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。



平成27年度 第2回
国有林モニター会議出席者の皆さん



屋久島の森に眠る遺構や人々の記憶 (第2回)

— 石は物語る —

柴崎 茂光 (国立歴史民俗博物館研究部・准教授)

大正9(1920)年6月、国有地の下げ戻し訴訟は島民側の敗訴となりました。しかし翌大正10年5月に、島民が前岳部分の国有林から薪炭材を調達することを認めた屋久島憲法が発表され、国有林利用をめぐる国と地元の衝突は一応の解決をみました。以後、屋久島における本格的な国有林経営が始まります。鹿児島大林区署は、効率的な木材搬出の手段として、森林軌道の建設にとりかかりました。ルート



写真1 国有林内に残る石橋跡

の現地探査を経て、大正11年6月から安房と小杉谷(現在の楠川別れ付近)間で工事が始まりました。島外の建設業者が仕事を請け負い、鹿児島や宮崎からの労働者も雇われ、100人を超える労働者が毎日従事したといわれています。谷には橋をかけ、花崗岩の巨岩を発破しながら、ときに隧道を掘りながらの大工事でした。その後も、昭和30年頃まで、軌道の延伸工事が、屋久島国有林内の各所で行われます。実際、軌道跡を歩くと、現在も立派な石橋や石垣が、林内に残されています(写真1)。

そもそも軌道に関連した建築用石材はどこから運ばれたのでしょうか。軌道周辺を歩き回ると、面白い花崗岩の巨岩に遭遇することがあります。削り取られた跡があり、その周辺には細かい花崗岩のかけらが落ちているのです。これは、線路の敷石などを調達するために発破された、石切り場と推察されます(写真2)。軌道建設の際に、行く手をはばむ花崗岩でしたが、同時に建築用石材としてなくてはならないものでした。

かつて林業集落で生活していた方から、興味深いことをうかがいました。「石橋や石垣は、土砂災害さえなければ、千年でも1万年でも残る」というお話でした。実際、多くの石橋は、往時とほぼ変わらない状況で現在も残っています。石工職人や、石積み

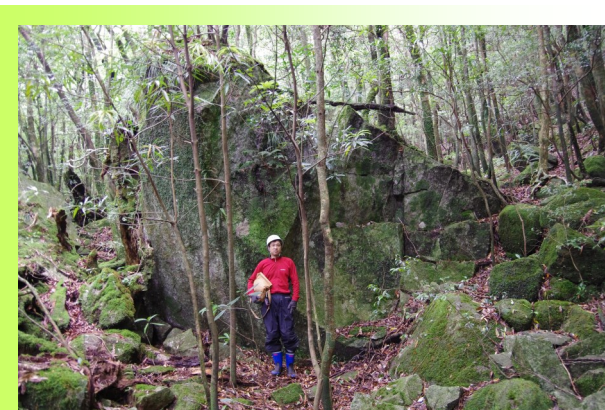
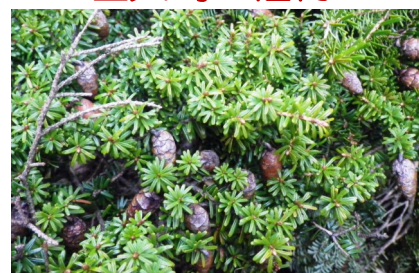


写真2 国有林内に残る石切り場跡と筆者

の技術をもった作業員らの、技術の高さを物語っています。科学的に証明することはできませんが、千年後の林内に、こうした遺構が残っていることは確かだと私も思います。屋久島の厳しい環境の中で、ヤクスギと同じ、いやそれ以上の長い間、先人の残した証が残る…。この事実気付かされた時、驚きを超えた感動を私は覚えました。(つづく)

屋久島の植物



ツガ
(マツ科)

本州中部以南に分布し屋久島を南限とする常緑高木。屋久島では標高500m以上の山地に生育。枝は屈曲して横に広がる。樹形は松の盆栽状で、スギやモミのようなまとまりがない。樹皮は赤褐色で鱗片状に裂ける。球果(まつぼっくり)は長さ2cmほどで下向きにつく。

屋久島生態系モニタリング



屋久島南部等の植生垂直分布調査（平成25年度）

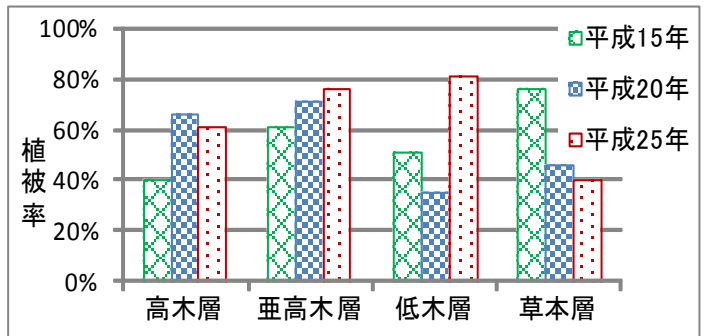
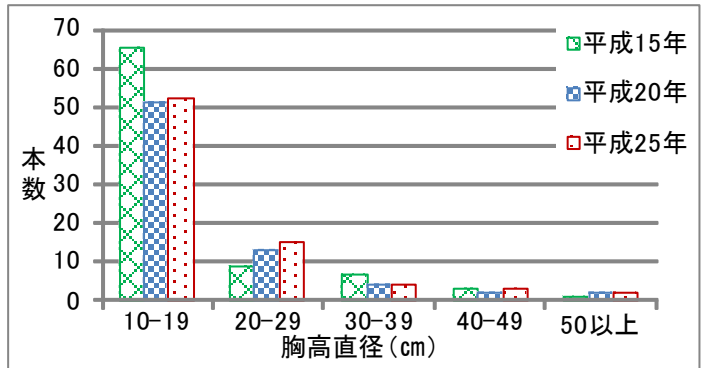
●標高 600 ㍎プロット（湯泊林道沿い）

[高木層] イスノキ、ウラジロガシ、タイミンタチバナ、ヤマモモ、スタジイ、エゴノキが多く、ホソバタブ、サカキなどが混生。**[亜高木層]** タイミンタチバナ、ホソバタブ、イスノキ、マテバシイなどが多く、ウラジロガシ、スタジイ、イヌガシなどが混生。**[低木層]** ヒサカキが最も多く、サクラツツジ、タイミンタチバナ、ウラジロガシ、イスノキが続き、比較的多くの種が混生。**[草本層]** ホソバカナワラビが最も多い。ガンゼキラン、ヤクシマヒメアリドオシランなどの絶滅危惧種を確認。

[胸高直径階別幹本数] 胸高直径 10-19 cmの本数が平成15年度から20年度にかけて減少したが、幹が成長して20-29 cmの本数が増えたことや、それに伴い自然間引きが起きたことが予想された。旧小プロット内での全体では殆ど変化はなかった。（旧小プロット 10×50 ㍎。新規小プロット（10×10 ㍎）を5点増設。）

[階層別植被率] 高木層、亜高木層は、平成15年度から25年度にかけて樹冠の広がりが増える。草本層の植被率が経年的に低下していることから、草本層から成長して低木層に達した種のあることが推測される。また草本層の変化は、被圧による影響以外にヤクシカの影響も考えられる。

[調査結果の概要] 高木層の優占種はイスノキだが、胸高直径50㍎以上のスタジイやウラジロガシの大径木も生育する広葉樹二次林。高木・亜高木層の成長に伴う樹冠のうっ閉で、草本層の植被率が減少しつつある。



巨樹・著名木 屋久杉

モッチョム太郎

モッチョム太郎は万代杉から約500m登ったモッチョム岳北東面(裏側)の傾斜地にあり、最近台風により枝が一部落下するなど樹幹の腐朽も進んでいる老木です。名前はモッチョム花子とともに公募によってつけられました。

モッチョム太郎にはヤクシマシャクナゲ、サクラツツジ、アセビ、ヤマグルマ、ソヨゴ、モチノキ等が着生しています。



- 樹高：24.5㍎
- 胸高周囲：9.4㍎
- 樹齢：不明
- 標高：820㍎
- 場所：モッチョム(本富)岳登山口から徒歩約1時間20分

参考文献：屋久杉巨樹・著名木 改訂版(H11.7)